
空 -sky-

鼎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空 - s k y -

【コード】

N8950P

【作者名】

鼎

【あらすじ】

深夜徘徊、やった事ありますか？

(前書き)

文学じゃねーと思うんだこれ。
もう初詣行きましたか？

無数のくすんだオレンジ色の光が、遙か遠くへと続いている。
実質の距離は50m程度だろうが、今の時間帯……具体的に言うならば「夜中でも明け方でも無い、空が中途半端に混ざった絵の具の色に染まった時間」……の醸し出す雰囲気のせいでそれは何倍にも感じられた。

とにかく、その場所は普段とは全く異なるオーラと容姿とを持っていた。

ちよつとした装飾品と見る時間の違いで、彼は……いや、当然ながら「場所」という概念に性別は存在しないが。彼は、「別人」と呼ぶに相応しい姿になっていたのだ。

閑話休題。俺は特にここに用事は無い。単に散歩道の途中で彼を見かけただけなのだから。
地についていた足を上げ、ペダルへと乗せる。こんな一つ一つのど
うでもいいような動作さえ、「彼女」は俺に意識させてくる。

流石にどの店も開いている訳がなく、というのはこの一帯には24時間営業しようという志を持った店が無いワケで、更に言うなら「彼女」のせいでもある。

そんな一風違った街並み。

何かが死んでいるような。

何かが足りないような。

何かを失ってしまったような。

それを見たくて、俺は「彼女」に会いにきた。

ペダルを漕ぐ音だけが聞こえる。

ペダルを漕ぐ音だけが「彼女」の空に響く。

この音さえ、何かを亡くしてしまったようだ。やはり「彼女」は平等だ。

更に閑話休題、体力には限界がある。早い話が疲れてきたのだ。

携帯の光る液晶が指すのは午前6時。空はまだあまり明るくない。そろそろ帰ろう。

「彼女」ともお別れだ。なに、また会えるさ。いつだって。会いたくなったらまた来ればいい。

自転車を反転させ、今まで来た道を視界に入れる。

「初詣ねー……一人で、か……」

そう呟き、

一人の初詣も良いものかもしれない。

そんな事を思い、

「よいつ……っしょっと」

俺はペダルを漕ぎ始めた。

(後書き)

「ノリで書いた」「痛い文を書いたが後悔はしていない」等と筆者は意味不明な事を述べており…

ちなみに初詣行ってません、俺。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8950p/>

空 -sky-

2011年1月8日23時30分発行